

## 2021年3月期（2020年度）連結決算 電話会議 内容説明スクリプト

### I. 全体の概要説明

それでは、本日発表いたしました当社2021年3月期連結決算の概要についてご説明します。決算短信の表紙サマリーをご覧ください。

#### 1. 2021年3月期連結決算 業績概要

##### 1) 当年度連結経営成績

当年度連結経営成績は、前年度比で増収、増益となりました。

① 売上高 9,261億円 前年度比742億円の増収

（売上総利益 1,509億円 前年度比414億円の増益）

② 税引前利益 1,234億円 前年度比444億円の増益

③ 親会社の所有者に帰属する当期利益946億円 前年度比340億円の増益となりました。なお、当期利益は過去3番目の利益水準となります。

##### 2) 全般概況

ここからは、当年度連結決算の全般概況をご説明いたします。決算短信の表紙サマリーまたは決算補足説明資料の1ページ上段をご覧ください。

#### [当年度連結決算 業績概況 前年度比較]

##### ① 当年度の金属価格の状況

銅およびニッケル価格については、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け前年度末にかけ大幅に下落しましたが、中国経済が回復しつつあることなどを背景に上昇基調で推移しました。金価格は当該感染症の影響による世界経済の先行き不透明感により上昇基調となり、第2四半期をピークとして推移しました。この結果、銅およびニッケル並びに金価格は前年度を上回りました。

##### ② 当年度連結税引前利益の状況

当年度連結税引前利益は、前述の金属価格の環境下、相場要因は全体で+248億円と好転しました。相場要因以外の項目については、海外銅鉱山を中心としたコスト差+116億円、材料セグメントの増益で+60億円等の好転要因がある一方で、数量差は▲32億円悪化しました。一過性要因では、前年度の太平金属工業の固定資産売却益90億円が当年度ないことと、QB2プロジェクトの建設中断コスト▲64億円による悪化要因はあるものの、シエラゴルダ社（Sierra Gorda S.C.M.）への貸倒引当金戻入+63億円、海外銅鉱山の税金費用の減少+27億円、その他未実現利益等+57億円を主要因とした好転要因が上回ったことで、連結税引前利益は前年度比444億円増益の1,234億円となりました。

#### [当年度連結決算 第3四半期決算時点予想比較]

第3四半期決算時点の当年度予想と実績との比較ですが、売上高は221億円増収、税引前損益は、204億円の増益となりました。

税引前損益 204 億円増益の内訳については、第 4 四半期において金価格は下落したものの、銅、ニッケルとコバルトが与件価格より上昇したことに加え、為替も好転したこと等により、相場要因全体で+55 億円と好転しました。これに加えて、その他為替差損益+32 億円、材料事業の増益+23 億円、数量差+8 億円、その他の未実現利益等+82 億円などの好転要因が重なったことにより税引前損益全体で好転しました。

### 3) トピックス

ここからは、当年度連結決算における各トピックスについて概況をご説明します。

#### ① 海外銅鉱山

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国家非常事態宣言を受けて 2020 年 3~5 月に保安操業を実施したセロ・ベルデ、同 10~11 月にストライキ発生による操業停止影響を受けたカンデラリアを除く各鉱山の当年度生産量は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が軽微であったことにより、前年度比好転ないしは前年度並となりました。当年度の各鉱山の損益も同様にセロ・ベルデを除き前年度比好転ないしは前年度並となりました。

#### モレンシー

当年度はコロナ禍のなかで操業計画の変更を実施しましたが、前年度から好調であったリーチング操業による高水準のカソード生産が第 4 四半期に下落に転じたこともあり、当年度の生産量は、前年度比で 15 千トン減少の 446 千トンとなりました。

#### シエラゴルダ

安定操業の継続により鉱石処理量が増加したことに加え、銅品位が向上したことで、当年度の生産量は前年度比 41 千トン増加の 149 千トンとなりました。

#### セロ・ベルデ

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国家非常事態宣言を受けて 2020 年 3 月中旬から 5 月中旬まで保安操業を実施した影響により、当年度の生産量は前年度比 83 千トン減少の 372 千トンとなりました。

#### カンデラリア・オホス

2020 年 10~11 月にストライキ発生による操業停止影響を受けたカンデラリアの当年度の生産量は前年度比 16 千トン減少の 95 千トンとなりました。

#### ② THPAL (タガニート HPAL)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い当年度期初に予定休転期間が一部長期化したものの、以降は順調な操業を継続しました。一方、第 4 四半期に大雨による鉱石搬送量低下による影響が発生したことなどから、当年度の生産量は前年度比 2.9 千トン減少の 29.4 千トンとなりました。

#### ③ CBNC (コーラルベイ)

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は軽微であり、順調な操業を継続したことにより当年度の生産量は前年度並の 19.1 千トンとなりました。

## 2. 2022年3月期 連結業績予想

### 1) 次年度通期連結業績予想の概況

今回設定した次年度通期連結業績予想の全般概況をご説明いたします。

決算短信 表紙サマリー下段、決算短信 添付資料5 ページならびに決算補足説明資料の1 ページ目下段および5-6 ページをご覧ください。

次年度通期連結業績は、

- ① 売上高 10,470 億円 当年度比 1,209 億円の増収  
 (売上総利益 1,500 億円 前年度比▲9 億円の減益)
- ② 税引前利益 1,380 億円 当年度比 146 億円の増益
- ③ 親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,040 億円 当年度比 94 億円の増益と予想しています。

業績予想の前提となる金属価格および為替は、決算短信 添付資料5 ページならびに決算補足説明資料の1 ページ下段に記載のとおり、足もとの金属価格の水準を考慮の上将来の需給バランスの予測等を踏まえ、銅 \$7,800/t、金 \$1,700/toz、ニッケル \$7.00/lb、コバルト\$15.00/lb、為替は107 円/\$ としました。

次年度通期の連結税引前利益は、予想算定の際の前提となる与件において、前年度比較で金およびコバルト価格を除く全ての金属価格の上昇と為替の好転を設定し、前年度比較では相場要因全体で+373億円の大規模な好転を見込みます。相場要因以外の項目については、材料事業の減益▲3 億円、数量差▲2億円などの悪化要因に対し、コスト差+40億円、その他の為替差損益+10億円の好転要因が上回る見込みですが、一過性要因では、前年度悪化要因のQB2プロジェクトの建設中断コスト▲64億円がなくなることで好転に対し、前年度の シエラゴルダ社への貸倒引当金戻入+86億円の好転要因がなくなる悪化に加え、海外銅鉱山業績好調による税金費用の増加▲166億円やその他未実現利益等▲67億円等の悪化要因があることで一過性要因全体では悪化を見込みます。全体としてはこれら悪化要因に対し相場の好転要因が上回ることにより、通期の連結税引前利益は当年度比 146億円増益となる 1,380億円と予想しています。

### 2) トピックス

ここからは、次年度通期連結業績予想における各トピックスについて概況をご説明します。

#### ① 海外銅鉱山

これまでの高水準のカソード生産が落ち着き減産の見込まれるモレンシーを除き、各鉱山の次年度の生産量は、当年度比好転ないしは当年度並を見込みます。また、次年度の各鉱山の損益は銅価格上昇の影響等を中心に当年度比大幅な増益を見込んでいます。

#### モレンシー

これまでの高水準のカソード生産が落ち着くなど減産が見込まれることから、次年度の生産量は、当年度比で78千トン減少の368千トンを見込みます。

#### シエラゴルダ

安定操業とデボトルネッキングの効果が通年に亘り貢献することにより、高水準の鉱石処理

量が継続することに加え、銅品位が上昇することにより、次年度の生産量は当年度比 31 千トン増加の 180 千トンを見込みます。

#### セロ・ベルデ

当年度コロナ禍により保安操業を実施した影響がなくなることにより鉱石処理量が増加し、次年度の生産量は当年度比 37 千トン増加の 409 千トンを見込みます。

#### カンデラリア・オホス

当年度のストライキ発生による操業停止影響がなくなることにより、カンデラリアの次年度の生産量は当年度比 53 千トン増加の 148 千トンを見込みます。

#### ② THPAL

次年度の生産量は、当年度発生したコロナ禍による予定休転期間の一部長期化や大雨による鉱石搬送量低下による影響がなくなることにより、当年度比 3.6 千トン増加の 33.0 千トンを見込みます。

#### ③ CBNC

次年度の生産量は当年度比 0.9 千トン増加の 20.0 千トンを見込みます。

### 3. 配当

配当についてご説明いたします。

決算短信 サマリー表紙下段および本日公表しました「2021 年 3 月期（第 96 期）配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。本日付の「2021 年 3 月期決算短信」で開示した連結業績の確定を受けて配当予想を見直しました。

2 月時点予想に比べまして、期末配当を 21 円引き上げ 99 円／株といたします。この結果、22 円／株で既に実施済みの中間配当と合わせ、年間予想配当金は 121 円／株、配当性向は 35.1%となる予定です。

なお、今回の年間予想配当金の 121 円／株は過去最高値となります。

一方、次年度の業績予想を公表したことに伴い、次年度は年間配当予想を 133 円／株とし、第 2 四半期末 71 円、期末 62 円といたします。当年度比では年間 12 円の増配となる見通しです。

## II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

それでは、2020 年度決算「補足説明資料」をご覧ください。

### 1. 1 ページ目「決算・予想比較」について

#### 1) 2020 年度決算 vs 2019 年度決算

1 ページ目上段の表が 2020 年度決算の前年度および 2 月公表業績予想との比較です。

まず、2020 年度決算の前年度との比較について、増減①-②を中心にご覧下さい。

金属価格と為替につきましては、その表の下段に記載のとおりです。

当年度の業績について、売上高は 9,261 億円で前年度比 742 億円の増収となりました。決算短信および 1 ページ目上段の表の下に注記のとおり、当年度から、顧客から受領した有償支給

品に係る会計方針を変更し、前年度にも本会計方針の変更を遡及適用しています。このため、売上高及び売上原価が、2020年度は従来の方法によった場合と比較して220億6千万円、また、2019年度は遡及適用前と比較して206億6千9百万円、それぞれ減少していますが、いずれも売上総利益以下への影響はありません。なお、対象は材料セグメント、電池材料となります。

税引前利益については、1,234億円で前年度比+444億円の増益となりました。

その増減分析は、表の脚注に記載の通り、相場要因による影響が+248億円で、このうち、価格・条件差が+287億円、うち、銅で+135億円、ニッケルで+72億円、コバルトで+12億円、金で+65億円などとなっています。為替差は▲38億円、在庫評価は前年度比で▲1億円となりました。

数量差では▲32億円の悪化です。前年度比減販となったセロ・ベルデの影響およびシエラゴルダは前年度比増販となったものの損失計上が続いているため分析上、増販によりマイナスサイドに計上されることとなっていることが主な要因です。コスト差については、順調な操業・生産を継続し前年度比増産となったシエラゴルダや電気銅、モレンシーなどで単位当たりコストの好転があったことから+116億円の好転となりました。

材料事業は、電池材料等で新型コロナウイルス感染症の拡大による需要の一時的な低迷を受けて前年度比減販となりましたが、粉体材料や結晶材料等で前年度比増販となったことなどにより、前年度比+60億円の増益となりました。

その他の特殊要因につきましては、前半部分でご説明のとおりです。

## 2) 2020年度決算 vs 2020年度予想(2月予想)

続いて、2020年度決算と2月公表の業績予想との比較が上段表の右端、増減①-③になります。売上高は2月予想比221億円の増収、税引前損益は204億円の増益となりました。なお、2月業績予想の売上高については、有償支給品に係る会計方針変更適用前の金額となっています。

税引前損益の増減分析は、表の脚注に記載の通り、相場要因による影響が+55億円です。このうち、価格・条件差で+30億円、うち、銅で▲14億円、ニッケルで+22億円、コバルトで+25億円、金で▲2億円等となっています。為替差で+1億円、在庫評価は+24億円となりました。数量差は+8億円、その他の為替差損益が+32億円、材料事業は各事業ならびにその他の持分法適用会社の好転により+23億円となりました。また、利息等で+4億円、その他未実現利益等で+82億円の好転となりました。

## 3) 2021年度予想 vs 2020年度決算

続いて、2021年度の通期業績予想と2020年度決算値との比較につきましては、1ページ目下段の表をご覧ください。

業績予想の前提とした金属価格および為替与件をその表の下段に記載しています。

この前提のもと、2021年度の通期業績予想は、売上高は1,209億円増収の1兆470億円、税引前利益は146億円増益の1,380億円と予想しています。

その増減分析は、表の脚注に記載の通り、相場要因による影響が+373億円で、このうち、価格・条件差で+497億円、うち、銅で+511億円、ニッケルで+30億円、コバルトで▲31億

円、金で▲19 億円などとなっています。為替差は+6 億円、在庫評価は QP 差により▲130 億円を見込んでいます。

数量差は▲2 億円、その他の為替差損益は+10 億円、コスト差については+40 億円の好転を見込んでいます。減産となるモレンシーでコスト差悪化を見込む一方で、シエラゴルダ、カンデラリア、THPAL など増産によるコスト差好転を見込んでいることなどが主な要因です。材料事業は業績予想の丸め数字の都合上▲3 億円となっていますが、実際はほぼ増減はありません。

その他の特殊要因につきましては、前半部分でご説明のとおりです。

## 2. 3 ページ セグメント別対前年実績比較（売上総利益増減）

それでは、3 ページをご覧ください。2020 年度決算のセグメント別前年比較です。

まず、左上の表の【資源セグメント】の売上総利益は 587 億円と+173 億円の増益となりました。

同じページの中段以下に売上総利益の増減説明を記載しています。菱刈鉱山は、+67 億円の好転となりました。主な要因は、金価格上昇による価格差で 70 億円の好転となりました。菱刈鉱山の販売・生産はいずれもほぼ計画通りとなりました。

海外銅鉱山は、大半がモレンシーですが、+95 億円の好転となりました。銅価格の上昇による 48 億円の価格差好転に加え、操業コストの削減・改善などによりコスト単価差が 47 億円好転したことなどにより、前年度比で大幅な好転となりました。

次に、【製錬セグメント】の売上総利益は 646 億円と+132 億円の増益となりました。

その内訳は下段の表の通りです。

銅系は+56 億円好転となりました。数量差で+4 億円、価格条件差で▲31 億円、コスト単価差で+34 億円、在庫評価で▲20 億円、その他で+69 億円となりました。その他のうち為替による影響は▲5 億円となっています。

ニッケル系は+103 億円好転となりました。数量差で+10 億円、価格条件差で+81 億円、コスト単価差で▲8 億円、在庫評価で+18 億円、その他で+2 億円となりました。その他のうち、為替による影響は▲14 億円となっています。

その他、グループ会社間取引のセグメント消去などで▲27 億円となりました。

## 3. 4 ページ セグメント別対前年実績比較（材料事業の製品群別売上高）

それでは、4 ページ上段、当年度の材料事業・製品群別売上高の対前年比較です。

材料事業全体の売上高は、前年度比+35 億円増収の 2,115 億円となりました。

電池材料の売上高は、主に第 2 四半期までの減販・減収により前年同期比▲107 億円減収の 956 億円となりました。粉体材料は増販により+79 億円増収の 372 億円となりました。パッケージ材料は▲1 億円減収の 173 億円となりました。結晶その他の事業は、+64 億円増収の 614 億円となりました。なお、注記のとおり、有償支給品に係る会計方針の変更及び遡及適用が、電池材料の売上高に反映されています。

3 ページ材料セグメントの売上総利益は、前年度比+49 億円の増益となる 250 億円、セグメント損益は前年度比+60 億円の増益となる 113 億円となりました。

#### 4. 4 ページ セグメント別対前年実績比較 (持分法投資損益)

次に、4 ページ下の表 持分法投資損益について説明します。

持分法投資損益全体では、前年度比+25 億円の増益となる 87 億円となりました。増益の要因として大きなものは銅系で、+44 億円の増益となる 62 億円となりました。

銅系のうち、セロ・ベルデは前年度比▲44 億円減益の 52 億円、カンデラリアとオホスは▲2 億円減益の 19 億円、シエラゴルダは+84 億円増益の▲35 億円となりました。

PTVI などニッケル系は+8 億円増益の 34 億円となりました。PTVI については、第 3 四半期において持分法適用会社から除外しております。エヌ・イーケムキャット他は▲27 億円減益の▲9 億円となりました。なお、この中には、QB2 プロジェクトを進めているケブラダ・ブランカ銅鉱山の持分法投資損益を含んでいます。

#### 5. 4 ページ 金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減

持分法投資損益の下の表、「金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減」には、前述の為替の影響額の他に、太平洋金属工業の固定資産売却益 90 億円を前年同期の一時的な利益計上項目として記載しています。また、シエラゴルダ社への貸倒引当金戻入額について、当年度の実績 86 億円と前年度の実績 23 億円を記載しています。

#### 6. 5 ページ 2021 年度予想比較 セグメント別 (2021 年度予想 vs 2020 年度決算)

5 ページをご覧ください。2021 年の業績予想と 2020 年度決算とのセグメント別比較です。業績予想の数値は 10 億円単位の丸め数字で記載しています。

左上の表の【資源セグメント】の売上総利益は 630 億円と+43 億円の増益となる予想です。中段以下に売上総利益の増減説明を記載しています。

菱刈鉱山は、年間で 6 トンの販売量は変わらず、金価格の前提見直しにより価格差で▲24 億円悪化となり、▲35 億円の減益となる予想です。

海外銅鉱山は、前述の通り大半がモレンシーですが、2020 年度比で減産・減販となることによるコスト単価差▲81 億円、数量差▲43 億円の悪化要因がある一方で、銅価格上昇による価格差+202 億円の好転により+83 億円の増益となる予想です

【製錬セグメント】の売上総利益は 550 億円と▲96 億円の減益となる予想です。その内訳は、下段の表の通り、銅系で▲88 億円、ニッケル系で▲41 億円の悪化と見えています。

銅系は、条件差で+18 億円の好転を見込む一方で、在庫評価▲73 億円、その他▲37 億円の悪化などにより▲88 億円の減益となる予想です。

ニッケル系は、電気ニッケルや THPAL などが 2020 年度比で増産・増販となることによるコスト単価差+19 億円、数量差+26 億円の好転要因がある一方で、在庫評価▲56 億円、その他▲29 億円の悪化などにより▲41 億円の減益となる予想です。その他▲29 億円のうち、為替差は+4 億円です。

#### 7. 6 ページ 2021 年度予想比較 セグメント別 (材料事業の製品群別売上高)

6 ページ上段、材料事業の製品群別売上高の 2021 年度予想と 2020 年度決算との比較について説明します。

材料事業全体の売上高は、自動車向け半導体不足の影響も懸念され予断を許さない状況ではあるものの、車載・通信分野ともに市況回復・需要増加基調となっており、+405 億円増収の 2,520 億円と予想しています。

電池材料は+224 億円増収の 1,180 億円、粉体材料は+68 億円増収の 440 億円、結晶、その他の事業は+106 億円増収の 720 億円、パッケージ材料は+7 億円増収の 180 億円と予想しています。

5 ページ材料セグメントの売上総利益は、+50 億円増益の 300 億円、セグメント損益は▲3 億円減益の 110 億円と予想しています。

#### 8. 6 ページ 2021 年度予想比較 セグメント別（持分法投資損益）

下段の持分法投資損益の 2021 年度予想と 2020 年度決算との比較について説明します。ここでは、5 億円刻みの丸め数字として表示しています。

持分法投資損益全体では、+318 億円の増益となる 405 億円と予想しています。増益の主要因は銅系で、+313 億円増益の 375 億円と予想しています。銅系のうち、セロ・ベルデは保安操業により大幅減産となった 2020 年度に対し+123 億円増益の 175 億円、シエラゴルダは銅価格上昇と増産、品位向上等により+115 億円増益し 80 億円と黒字化の予想です。カンデラリアとオホスは、カンデラリアがストライキによる減産影響があった 2020 年度に対し大幅な増産となり+86 億円増益の 105 億円となる予想です。ニッケル系は PTVI が持分法適用会社から外れたことで▲9 億円減益の 25 億円、エヌ・イーケムキャット他の部分については、+14 億円増益の 5 億円となる予想です。

#### 9. 6 ページ 金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減

金融収益・費用、その他の収益・費用の主たる増減には、前述の為替の影響額の他に、Sierra Gorda S. C. M. への貸倒引当金戻入 86 億円を 2020 年度の一時的な利益計上項目として記載しています。

#### 10. 9 ページ 財務状況（キャッシュフロー）について

最後に、9 ページの財務状況のうち、下段のキャッシュフローについて説明します。

当年度は、営業活動によるキャッシュフローは 915 億円の収入となりました。投資活動によるキャッシュフローは有形固定資産の取得などにより 324 億円の支出となりました。財務活動によるキャッシュフローも借入金の返済などに伴い 558 億円の支出となったことから、当年度末の現金及び現金同等物残高は 1,584 億円となり、期首残高から換算差額を含めて 29 億円増加しました。

以上